

兵庫県環境審議会総合部会・環境基本計画検討小委員会（第6回）合同会議 会議録

開会の日時 令和7年1月21日（火）
10時30分開会
12時00分閉会

場 所 ラッセホール 5階 サンフラワー

議 題 第6次兵庫県環境基本計画（案）の検討

出席者	会長	中瀬 勲	副会長	新澤 秀則	委員	秋山 和裕
	委員	伊藤 傑	委員	江崎 保男	委員	大久保 規子
	委員	川井 浩史	委員	近藤 明	委員	住本 陽子
	委員	高橋 晃	委員	谷勝 公代	委員	寺門 靖高
	委員	泥 俊和	委員	中野 加都子	委員	中野 朋子
	委員	能美 龍太郎	委員	狭間 恵三子	委員	増原 直樹
	委員	向山 遥温	委員	横山 真弓		

欠席者 委員 竹尾 ともえ 委員 椿原 健右 委員 三橋 弘宗

会議の概要

開会（10時30分）

○ 議事に先立ち、菅環境部長から挨拶がなされた。

1 議事

第6次兵庫県環境基本計画（案）の検討

資料1～4について、事務局から説明した。

以下、委員からの質疑があった。

（大久保委員）

大変丁寧に対応いただきありがとうございます。1点見逃していた点があった。

資料2の意見11、12の絶対的デカップリングへの対応だが、国の環境基本計画の最も重要な点は、用語の使用の有無に関わらず、基本形には豊かさや経済の付加価値が拡大しても、環境負荷の総量は減少するというところにある。川井委員の意見は、「大事だがあまりなじみがない表現なので、別の言葉にしたらいいのではないか」という指摘だと思う。新澤副会長も同様だと考えている。「環境と経済・社会の統合による新しい価値の創出」だけだと経済の付加価値が増大しても環境負荷の総量が減少するという後半の部分が抜けている。ネイチャーポジティブがまさしくそうだと思うが、他の部分との整合性もとれるのではないか。

(東尾環境政策課長)

資料1の57～58ページに追記したい。

(増原委員)

非常に丁寧に対応いただき、全体的に違和感はない。

資料1の68ページ「コラム16 将来世代の声の取り込み」とあるが、「取り込み」や「吸い上げ」だと、県が上だというニュアンスを感じる。向山委員が気にならなければいいが、少し気になった。

(向山委員)

我々世代が最も気候変動の影響を受ける世代なので、「取り込む」というより「若い人に主体的に行動してもらおう」というようなニュアンスにしていただいた方がよい。「ともに、一緒に」という言葉がよいのではと感じた。この問題と向き合う上で、若い人を重要なステークホルダーとして位置づけ、一緒に考えていくという感じがいいのかと思う。

(東尾環境政策課長)

計画文中では「共創」と表現している。

(中瀬会長)

共創でいいのではないかな。

(新澤副会長)

資料3の意見16で、目標設定が低いという意見があるが、数値が高いのか、低いのか私にはわからない。そもそも脱炭素型ライフスタイルによる脱炭素量は測定可能なのか。脱炭素に関係する行為の数を指標としているものや、量を指標としているものもある。数字があるということは、資料はあるのだと思うが教えてほしい。

先ほどの大久保委員からの指摘の中で、ネイチャーポジティブとの関連で記述を復活させる必要があると意見があったが、カーボン negativity なもの。ポジティブとネガティブを足し引きした結果がカーボンニュートラルだと思うので、ネイチャーポジティブだけの問題ではなく、両方に関わることではないか。その辺、大久保委員に確認したい。

あと、出典を書くのはよいが、書き方がばらばらである。資料1の5ページのプラネタリーバウンダリーの図を見ると、Science Advances は雑誌の名前、Earth beyond six of nine planetary boundaries は論文のタイトル、6ページの「グローバル・フットプリント・ネットワーク」は図を作った組織の名前である。学術論文ではないが、もう少しそろえた方がよいのではないかな。兵庫県が作った図ではなく、誰が作った図かを示す、さらには、読んだ人が元の出典にたどり着けるようにすべきである。長々と書く必要はないが、もう少しそろえた方がよい。全体を見渡してチェックいただきたい。

(中瀬会長)

図表の出典はそろえてください。インターネットから引用しているものも、最低限たどり着けるようにしてください。

(大久保委員)

具体的な例として、生物多様性分野でいえば「ネイチャーポジティブ」と申し上げたが、

先ほどの発言の趣旨は、絶対的デカップリングの意味、「環境と経済・社会の統合により付加価値が増大しても環境負荷が軽減する」という趣旨を加えた方がよいということである。具体的には、資料1の58ページの1行目「取り込むことを通じて、」とし、そのあとにそれらを述べればよいのではないかと考えている。

(東尾環境政策課長)

本文に反映する。

ご質問いただいた指標について、資料1の116ページの17に考え方を掲載している。事業の中で、脱炭素アクション、つまり徒歩・自転車の活用、省エネ家電の導入、食品ロスの削減などによる脱炭素量を見える化する事業を進めており、つまりこうした事業のアウトプットを集計している。

(伊藤委員)

抽象的な話になるが、兵庫県環境部の仕事は素晴らしいと思う。家の前が須磨海岸だが、子どものころは、海に浸かったら重油で真っ黒になり、魚は奇形のものも多かった。それが平成以降、海が驚くほどきれいになった。ただ次は、栄養塩類の問題、いかなごがとれない、ノリが色落ちする問題に直面しながらも、先進的に取り組んでいると理解している。閉鎖性海域の環境を考えるエメックスの議員連盟に入っており、アメリカ・ロシア・タイでの会議に出席し、視察もしたが、兵庫県が進んでいると感じた。逆に兵庫県に見に来てほしいくらいだった。基本計画も素晴らしいので、海外を含め、今以上に発信すべきだと思う。資料1の58ページに「県民と共に創る環境価値」と書いてあるが、県民の方々、特に若い方々に見ていただけるような取組が必要ではないか。若い県民に興味を持ってもらうためには、これまでの成果、例えば須磨海岸がこれだけきれいになったということなどを紹介する文面を入れたらよいのではないか。そうすることで、県民の方々がより協力してくれるようになり、計画を推進することになるのではないか。

(東尾環境政策課長)

ご指摘のとおり、分かりやすく発信することが重要で、若い世代に理解いただくことも重要だと考えている。今後、この計画を端的に示したリーフレットの作成を考えており、その中で検討していきたい。

(伊藤委員)

ノリの色落ちなどを体験しているのは兵庫県だけだと思う。きれいになった先の課題まで経験しているのが兵庫県の強み。ぜひ世界に向けて発信してほしい。

(中瀬会長)

世界に、若者に向けた発信、ぜひ願います。30by30の登録数は兵庫県がトップクラスである。これまでの共創の力による結果だと思う。

(菅環境部長)

計画にも書いているが、国際研究機関のIGES、APN、エメックス等との連携、また、大阪関西万博にあわせた環境部でのフォーラム開催などを通じて発信していきたい。

(横山委員)

資料1の53ページの「県内関係機関や研究機関との連携」及び次ページの「ライフステージに応じた環境学習・教育の推進」で気になったのが、兵庫県の場合、市町が設置している自然関係の機関があり、幼児教育も市町の役割が大きいです。個別には神戸市の取組紹介もありますが、市町との連携が感じ取りにくい印象があるので、市町設置の機関を取り上げて、県との連携・推進に触れるとよいのではないかと。市町の取組や環境学習が重要なので、そうした表現があるとわかりやすい。市町の役割の大きさを示していただきたい。

また、生物多様性戦略を策定している市町もある。大きな変更は求めないが、各所に市町との連携に触れていただければいいと思う。

(川井委員)

細かい話だが、用語解説について、資料1の131ページに「ミッシングリング」の解説を追加されているが、これは本来の用語解説ではなく、中身の解説になっている。用語解説は引用される可能性もあるので、本来の意味を先に書いていただき、そのあとで「兵庫県では」とした方がよい。

また、126ページに県民緑税とあるが、これは兵庫県独自の制度だと思うので、それが分かるように書いた方がよいのではないかと。用語解説は全体を通して、一般的な用語かどうか、整合をとっていただいた方がよい。

図版の引用に関して、これを見てもっと知りたい人もいると思う。重要な出典については、最後に、引用文献やURLを入れた方が使いやすい。国際機関等の報告書もリファレンスがついている。また、年度が変わると数字は大きく変わる。原点に戻れるようにしてほしい。

(東尾環境政策課長)

ミッシングリング等について、一般的な表現にしたい。図版の引用についても統一したい。

(中瀬会長)

人と自然の博物館の用語解説だが、「自然」系だけでなく、「環境」もあるので、記載いただきたい。

(向山委員)

若い世代はコラムに目が行くと思う。コラム17で、細かいところだが、地域の要素が少ないと感じた。めざす次世代の担い手に「地域」という言葉が出ていない。例えば、環境問題を知り、日々の生活でできることまで落としこむプロセスを踏み、地域で活動をはじめることができるというニュアンスの言葉を入れてもらいたい。今の環境問題を捉えて、地域で活動するところまで考えていかなければいけないと思う。

今後の取組にあたって、若い世代と行政をつなぐ架け橋の存在がない。兵庫県の取組は素晴らしいと感じているが、学生、ユース世代に伝わりきらないところがあると思うので、その役割を我々若い世代が担っていく必要があると考えている。そのために、学生が世界や国、同世代に向けて発信していく枠を作ってもらいたい。

(東尾環境政策課長)

地域、若い世代、橋わたし、世界への発信などのキーワードを入れて記載したい。

(狭間委員)

パブリック・コメントで提出された意見に対して大変丁寧に答えている。資料3の意見8

で「環境適合型社会」より「環境共生型社会」の方がよいのではないか、という意見に対し、「環境適合型社会」は環境保全条例で示していると回答しているが、125 ページに環境保全条例の用語解説があるので、ここにも「環境適合型社会」について記載すればよいのではないか。

あと、県内 GDP という言葉だが、一般的には GDP は国内総生産、県内総生産は GRP だと思う。

(東尾環境政策課長)

一般的には GRP が正確だと思うが、県では県内 GDP としている。

(中瀬会長)

ご意見を含め用語解説に加えてください。

(秋山委員)

資料1の123ページの右側について、「改正」や「公布」というように、同じような内容だが、異なる表現が使われているので、同じ表現にした方がよい。2022年に気候変動適応法改正案閣議決定とあるが、その後どうなったのか記載がない。そのあたりを統一した方がよい。

(中野加委員)

資料1の58ページのウェルビーイングの説明について、難しいところだと思うが、ウェルビーイング(県民の幸福)とすると、「ウェルビーイング=県民の幸福」と受け取られてしまう。その県民がテレビなどでこの言葉を見たときに余計にややこしくなってしまう。また、資料1の124ページの用語解説で、国の環境基本計画の中では「高い生活の質」と明記されていると書かれており、意味があちこち飛んでしまい、よくわからない。57、58ページ第1節 計画の方向性として、「兵庫五国の多様性を活かした環境適合型社会の実現」、「環境と経済・社会の統合による新しい価値の創出」となっているので、「県民のウェルビーイング(高い生活の質)」の実現とした方がわかりやすいのではないか。

(中瀬会長)

本文と用語解説等をどのように関係づけ、理屈を合わせるか。事務局にて検討ください。

用語解説の用語がどのページで出てくるか書けば、用語解説から計画を見てみようとする人も出てくるかもしれない。県庁で、また県民が読むだけでなく、環境学習の素材となる可能性もあるので、そうするとこの計画が使いやすくなる。

(寺門委員)

計画書を読ませていただいて資料1の113ページだが、具体的にどうするのか、前回も具体的にどうなのか質問したところ、個別計画で決めますという説明だった。個別計画という言葉が4ページにあるが、113ページとの関係がよくわからない。個別の部会で関係しているところは審議されるのだと思うが、113ページの最後が尻すぼみのような感じがするので、具体的にどうするのかもう少し書いたほうがよいと感じた。せめて個別計画でどのように進めていくのか、各市町との連携をどう進めていくのか、もう少し具体的に書いた方がよいのではないか。

(東尾環境政策課長)

各分野の取組状況については、環境審議会に報告し、ご審議いただき、その結果を次の施策や予算に反映している。113 ページの図で示しているが、わかりにくいというご意見をいただいたので、今いただいたキーワードを入れる形で修正したい。

(狭間委員)

資料1の58ページに基本理念の図があり、概要版にもあるが、「県民と共に支えあい、協働しながら環境価値を創造」と書いてあるが、「次世代を育み」という言葉を、この図のところにに入れていただきたい。

(能美委員)

トランプ大統領が就任し、パリ協定からの離脱という話があった。世界の潮流から切り離せないが、足並みがそろわないところがある。それに翻弄されないところで、兵庫県の先進事例の発信もそうだが、世界の潮流に乗って取り組まなければならないということだけではなく、地に足の着いた兵庫県ならではの取組、なぜ兵庫県でやらなければならないのかを考え、そうした地域を起点とした取組を進めていくべきと感じた。

先ほど用語の話があったが、丁寧な解説があり読みやすくなっているが、専門用語以外の横文字をもう少し減らすべきではないか。ニュースの原稿を書くとき、読者・視聴者にわかりやすい文章を意識しているが、本文を読むと、サプライチェーン、ポテンシャル、アップサイクル、コンソーシアムなど専門用語以外にも日本語に置き換えられる横文字も多い。県民の皆さんに取り組んでもらうには、わかりやすい表現を心がけていただければと思った。

(中瀬会長)

今日は非常に前向きな意見、プラスアルファの意見だということによろしいか。本案にご意見を付加した形で答申することに合意いただけるか。

(全委員)

異議なし。

(中瀬会長)

これを部会の決議とし、会長として同意するので、答申させていただく。
本日の議事を終了する。